

平成 25 年度 6・12 (6 月 12 日実施) 総合防災訓練 土木部防災訓練の実施速報

平成 25 年 6 月 13 日
宮 城 県 土 木 部

1 はじめに

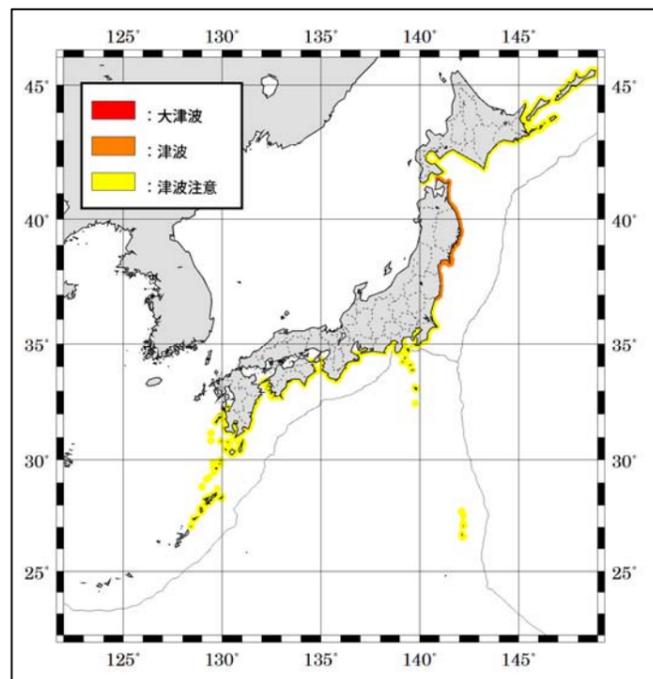
東日本大震災の経験を踏まえ、今後も起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、宮城県震災対策推進条例に定める「みやぎ県民防災の日」(6 月 12 日)に合わせ県として総合防災訓練を実施しました。

土木部では、災害対策本部の訓練(全庁訓練)と平行し、本庁と地方機関が連携した上で、災害時応援協定を結んでいる各協会からの協力を受け、一昨年度改訂した土木部BCP計画(大規模地震発生時における土木部業務継続計画)の検証を行う訓練内容として実施しました。

◇土木部訓練参加者：1, 176名(うち図上訓練参加者386名)

【被害想定等】(全庁同一条件)

- ◇前日より大雨・洪水警報及び土砂災害警戒情報継続
- ◇震源：三陸沖 地震の規模：M9.0(東日本大震災規模)
- ◇各地の震度：県内全域で震度6弱～7
- ◇津波：当該地震に起因する津波が発生(大津波警報)



左図：気象庁『平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震』について(第 12 報)より引用

右図：国土交通省「日本の崖崩れ対策」より引用

【訓練方式】

シナリオブラインド型ロールプレイング方式として、コントローラー(条件付与者)側のみ訓練シナリオを把握し、プレイヤー(訓練参加者)には条件を知らされていない、実態に即した訓練である。

2 訓練の実施

(1) 職員安否確認の情報収集・伝達

各事務所や県庁各課において、登庁前の安否確認を行い、その情報が適切に伝達できるかの訓練を行った。

【県民の皆様へのお約束】

宮城県土木部では、震度 6 弱以上の地震が県内で発生したとき、主に土木部で管理する以下の項目について情報提供を開始します。

- 道 路：3 時間以内に 1・2 次緊急輸送道路の規制状況について
- ダ ム：3 時間以内にダムの被災情報について
- 下水道：6 時間以内に下水処理場の使用について
- 港 湾：12 時間以内に仙台塩釜港仙台区の岸壁使用について
(※上記以外の業務については段階的に開始します。)

以上の業務について確実に履行するため、土木部では全力をもって対処することとします。また、そのための計画として本計画を位置付けています。



被災情報の収集状況

(2) 土木部 BCP 計画に基づく災害対応（初動期）の実施

①緊急パトロール実施訓練

各事務所において、被災状況の確認のため、現地調査を実施した。

なお、現地調査にあたり、職員によるパトロールはもちろん、各施設の管理業者にも参加して頂き、現地被災状況を調査しました。

②被災情報の伝達訓練

各被災現場から上がってきた情報がとりまとめられ、適切に伝達されることにより、県庁土木部災害対策本部事務局へ伝わったかを確認しました。



緊急パトロール実施状況(ニッ石ダム)



コントローラー情報付与状況

③土木部災害対策本部会議設置訓練

被災現場情報等について、土木部としての災害対策本部を立ち上げ、今後の被災調査方針及び応急対応等について、報告及び議論がおこなわれました。

こちらの会議を持って、県災害対策本部へ諮る資料へと整理されていきました。



土木部災害対策本部会議開催状況

3 訓練の反省点

訓練が終わったのち、速やかに反省会を実施し、以下の反省点等の主な意見があげられました。

(1) 安否確認について

- ・13時現在においても安否確認不可が31名。確認不可の理由を把握するべき。
- ・「安否確認システム」利用について、携帯電話不所持者の対応を検討するべき。

(2) 訓練シナリオ

- ・災害条件に対して、被災報告内容の被害程度が軽い。
- ・全庁でどのように動いているかわかりづらい。
- ・各事務所の特殊性を踏まえた上で訓練を実施するべき。

(3) 県民土砂災害相互システムの活用

- ・今回の訓練で県民土砂災害相互システムの実力が発揮された。しかし、一部事務所においては運用訓練が実施されず、使用方法等の確認が行われなかった。

4 最後に

訓練当日、県庁及び事務所に来庁、または電話を頂いた方には、適切に対応できずご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

また、訓練に協力いただきました、災害時応援協定を締結しております、各団体の皆様には、大変お世話になりました。

土木部としましては、引き続き3.11地震・津波の対応等への検証、防災訓練のさらなるレベルアップを図り、防災体制の強化に努めていきます。

以上

☆☆☆☆☆ 復興へ頑張ろう！ みやぎ ☆☆☆☆☆
宮城県土木部は、3.11の苦い経験を踏まえ、防災対策No.1を目指していきます！